# みんなの広場

## 5月のアーティスト

千田 來叶（らいか）ちゃん
二子保育園 5歳

保育園の近くに咲いた桜を見ながら、先生と一緒にお散歩したよ。落ちてきた花びらをキャッチするのが好きなの。楽しかったな。

## みんなの詩歌 No.278

新幹線降りるとそこはビルばかり
みんな小人に変わったみたい
佐藤 未来

あこがれの東京へ行き知ったのは
目線のどこかに人とタクシー
松田 彩花

改札と駅員さんとに右往左往
体幹鍛えいざ横浜へ
土田 悠生

上野中学校三年

※掲載作品は日本現代詩歌文学館内に展示しています。

## おらほの愛どる

**佐藤 優真（ゆうま）くん**
令和4年4月13日生まれ
（中野町）

わが家の小さなお笑い芸人！いつも家族を笑わせてくれてありがとう♡

**後藤 虹穂（にほ）ちゃん**
令和5年3月2日生まれ
（藤沢）

いつもニコニコ笑顔で周りにいる人たちも笑顔にさせちゃう虹穂は北上市のアイドルです♡

**千田 楷（かい）くん**
令和5年7月25日生まれ
（大堤西）

元気に生まれてきてくれてありがとう。これからたくさん思い出を作ろうね！

掲載申込みはこちら



## この人に聞く Spotlight No.216

### 鬼剣舞の面に魂を込めて50年

八重樫 俊一（しゅんいち）さん

岩崎鬼剣舞保存会の会長であり、50年以上民俗芸能「鬼剣舞」の面を掘り続ける面師の八重樫俊一さん（和賀町岩崎・73歳）。現在もオカド（鬼剣舞のおはやし）を担い、農閑期に鬼の面を手彫りしています。

鬼剣舞に関わるきっかけは、小学6年生の頃にできた鬼剣舞道場（現岩崎鬼剣舞スポーツ少年団）に通ったこと。20歳の頃に岩崎鬼剣舞保存会に加入し、本格的に踊り始めました。同時期に「自分で身に付ける面がほしい」という思いで、16歳から磨いてきた大工の技術を生かし自分の面を独学で創作。「よそ様に渡せるような面ではなかったが満足していた」と振り返ります。しかし、面作りの名人と言われた小田島昌悦（しょうえつ）さんが作成した面と比べた時に「これではだめだ」と思い、同氏に弟子入り。彫り方や面には顔の幅や長さ、厚みなどの寸法があることを学びます。

制作では今も昔もノミや木製ハンマー、彫刻刀を用いて手彫りしています。「3ミリ違うと全く違う面になる。昔の面をコピーすることは1番難しい」と話し、ものさしでミリ単位の調整をしながら、熟練の技術で彫り出します。漆を幾重にも重ねて面に輝きと表情を与え、1点に4・5カ月の時間と根気をかけ、愛情を込めて手がけてきました。

彫ることへの情熱と師匠からの教えを守りつつ、「唯一変わったのは面の表情が優しくなってきたこと」と笑みをこぼします。また、昨年鬼の館が取り組んだ3Dプリンターを活用した面作りには「表と裏の両面が再現されていて素晴らしい」と理解を示しながらも、「最終的には手彫りが1番魅力がある」と思いを語ります。

「頼られれば、体が動くまでは彫り続けたい」と意欲を見せていました。

## 5月のクラス

### 花巻清風支援学校 北上みなみ分教室 小学部

わくわく・げんき！
なんでもがんばる！やるき！
げんきに あいさつ　にこにこ なかよし

※今月は児童が作成した学級目標を紹介します（上段：3・5年生、下段：1・2年生）。

**主任 上山先生からのメッセージ**

同校小学部は「みなキラ」という愛称で呼ばれています。南小学校の児童と各行事を一緒に行い、理解を深め合っています。共に遊び、学ぶことでお互いに成長してほしいと願っています。